

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子 登志雄

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・昨年度に目標指標として定めた標準スコア 52.0 を達成した学年教科は、2年国語、3年国語・算数、4年国語、5年国語・社会・算数であった。・各教科観点別の指標では、目標値及び全国平均値をともに超えることを目標としたが、51項目中32項目で達成した。	<ul style="list-style-type: none">・標準スコア 50.0 に満たなかった学年教科は、4年理科、5年理科、6年国語・社会・算数・理科・英語で理科と6年の不振が課題としてあげられる。・観点別指標で目標値及び全国平均値の両方に満たなかった項目は、4年理科「知識・理解」、4年理科「主体的に学習に取り組む態度」、5年理科の3観点、6年国語「知識・技能」、6年社会の3観点、6年理科の3観点、6年英語「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」と、全学年の理科と6年で課題が大きい。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・授業の予習・復習に関する設問に対する肯定率は、3年で66.7% (全国平均比+21.5P)、4年で54.7% (全国平均比+12.0P) と良好であった。・ノートの工夫に関する設問への肯定率は、3年78.8% (全国平均比+8.5P)、6年72.5% (全国平均比+2.2P) と「三吾スタンダード」による指導の成果が表れている。	<ul style="list-style-type: none">・授業の予習・復習に関する設問に対する肯定率は、5年で44.7% (全国平均比-8.6P)、6年で40.0% (全国平均比-13.9P) と、学年が進むにつれ、予習復習の習慣が低くなっていくという傾向が見られた。・ノートの工夫に関する設問への肯定率が全国平均を下回ったのは、4年64.2% (-4.1P)、5年63.5% (-8.5P) であった。この2学年については学級間の格差も大きく、全校を挙げての授業改善が課題として明確になった。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査では、国語の平均正答率が68% (全国平均比+3.3P) と良好で、観点別にみると「知識・技能」が73.1% (全国平均比+4.8) であった。・全国学力・学習状況調査では、算数の平均正答率が69% (全国平均比-1.2P) と同等であった。	<ul style="list-style-type: none">・全国調査・国語の平均正答数は9.5問であるが、それを下回る8問正答者が最頻値となっている。中間下位層への指導が課題である。・全国調査・算数の調査結果を領域別にみると「図形」57.1%と最も低かった。また問題形式では、「記述式」が48.8%と低く、課題と言える。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力向上委員会を中心にした組織的な「振り返り学習」の徹底

- ・ 学力向上委員会が策定する「学力向上計画」に基づいて、適切に「ふりかえり期間」の取り組み内容を実施する。今年度3月の取組では、理科の振り返りを重点とする。
- ・ 「Web支援システム」の情報を活用し、適切な「ふりかえりシート」を厳選して家庭学習の課題として取り組ませるとともに、授業初めの5分間で解説し、定着を図る。
- ・ Teamsを活用し、「すみ研チャンネル」を設置し、すみだ教育研究所からの情報を適切に周知・活用する。また「学力向上チャンネル」で、学力向上の取組について共通理解を図る。
- ・ 1月に学年の課題に応じた学力調査を実施し、その結果を分析し、3月の「学習ふりかえり期間」において指導の重点を明確にした取組を進める。
- ・ 家庭学習の補完教材として「ミライシード」等、ICT教材の有効活用を図る。

(2) 個に応じた学習支援

- ・ D層E層に対して、SST（スクールサポートティーチャー）及び学校支援指導員を、各学年に週3時間（1, 2年は学級に週3時間）程度配置し、個別の支援を充実させる。
- ・ C層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、各学年の学力向上委員を中心に適切な学習課題を選定して学習に取り組ませることで、基礎的基本的事項を定着させるとともに、学習意欲の向上を図る。
- ・ 学習室「みどり」を有効活用し、教室に入ることが困難な不登校傾向児童の学習支援を行う。

(3) シンキングサイクルの活用による「見方・考え方」の習得

- ・ 校内研究のテーマを「授業における学習過程の研究～シンキングサイクルの活用による『見方・考え方』の習得」とし、年間7回の授業研究等を通して授業改善を進める。
- ・ 児童にタブレット端末を、鉛筆やノート、教科書、辞書のような学習の「道具」として日常的に活用させ、学習意欲の向上を図り、他者との交流に主体的に関わるようにさせる。
- ・ タブレット端末の機能を、思考を整理し深める道具として活用させることで、課題解決のプロセスとしての児童の思考パターンの定着を図り、学習過程に見通しをもたせる。
- ・ 一律に課す「宿題」に加えて、「家庭学習のすすめ」（家庭学習を進めるためのリーフレット）に基づいて、ノート指導の徹底など児童が主体的に取り組む学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 全学年、全教科の標準スコア 52.0 以上。
- ・ 全学年、全教科の観点別全 51 項目のうち、全項目で平均正答率が目標値と全国平均を超える。

- ・ 令和2年度の調査では、標準スコア 50.0 未満の教科はなく、52.0 未満だったのが5年理科と6年社会だけであった。令和3年度は1（1）で挙げたように、昨年度の水準を下回った。2で挙げた取組を徹底することにより、昨年度の水準まで回復させたい。
- ・ 観点別の項目で目標値及び全国平均を超えたものは、令和元年度の69観点中33観点（47.8%）から昨年度は69観点中66観点（95.7%）という伸びが見られた。しかし、今年度は51観点中32観点（62.7%）に留まった。教科としては理科、学年としては6年と、今年度の弱点は明確になっていることから、来年度に向けての重点的な取組を進めるとともに、全体の底上げも図っていききたい。